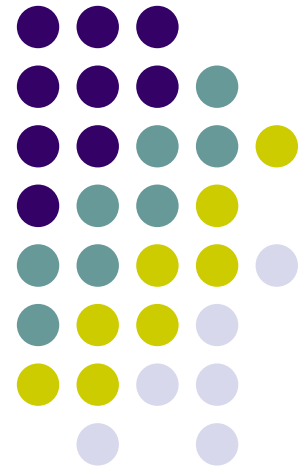


# 期末試験と成績評価に ついて

2008年度「企業論」

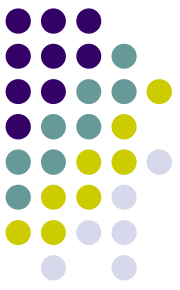
川端 望





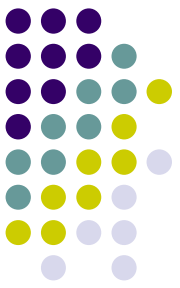
# 試験と単位認定について

- 小テスト20点、期末試験80点。計100点満点で60点以上が合格
- 上記の100点枠とは別に、授業中の発言、質問提出による加点・減点がある。
- 『学生便覧』の「専門教育科目の履修上の注意」の試験関連事項をよく読むこと
  - 追試験は、試験終了後3日以内に教務係に願い出る
- 試験結果はWeb入力するので2月半ば以後、各自確認可能になる
- 試験結果に疑義がある場合は、教員に申し出ることができる
  - ただし、結果への疑義と関係ない頼み込みは受け付けない



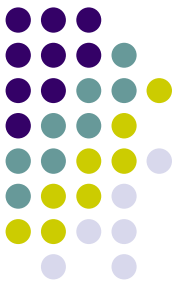
# 試験の方法

- 出題の少なくとも一部は穴埋め式と選択式である。さら  
に加えて記述式も出すかどうかは非公開。
- 出題範囲は、「第2章 内部組織」以後とする
  - 第2章を含む
  - TCEに沿った説明を求める、講義での教員の見解に沿った説  
明を求める、受講者自身の見解を求める場合、の区別が明ら  
かなように出題する
- 以下のもののみ持ち込み可（掲示済）
  - A3の紙1枚。裏表に手書き、印刷、コピーで何を書き込んで  
もよい。ただし、シール、付箋などの別紙を添付してはいけ  
ない。その他、面積を増やす一切の操作をしてはいけ  
ない。



# 過去の出題について

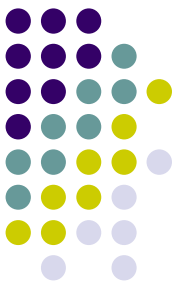
- 2006年度の期末試験問題と解答は以下で公開されている。
  - <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/jugyofile/2006kigyoyo/2006ans.pdf>
- 2年前と同じ出題が一つもないとは限らない。



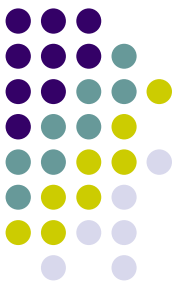
# 何に注意して勉強するか

- テキスト、スライド資料、ノート理解
  - スライドを極度に詳しくつくっているので、スライドに特に注意を払う
  - 実際に教員が何をしゃべったか、ノートで確認する。
- キーワードの定義が書けるように練習する
  - 経済辞書は『有斐閣経済辞典第4版』、『岩波現代経済学辞典』を推奨するが、辞書が正しいとは限らないので注意
- 対になっている言葉がセットで出てくるようにする
  - 「生産費用」と「取引費用」とか、「企業内労働市場」「職業別労働市場」「二次的労働市場」など。
- 図や表で説明されている考え方に注意する

# この講義の基本的な組み立てを理解する



- TCEの主張をきちんと理解する
  - TCEの理論
  - TCEによる日本の企業システムの説明
- この講義の主張をきちんと理解する
  - TCEによる日本の企業システム理解はどこまで有効で、どこがおかしいか
  - TCEによらないのであれば、日本の企業システムをどう理解すべきか
- この講義に沿って、日本の企業システムとその変化を理解する



# 復習のための主要文献

- 宮本光晴[2004]『企業システムの経済学』新世社。
  - 本講義は、この本を批判的に読むことによってつくられた。そのため、本講義で「TCEの見解」としている考えは、おおむね(すべてではない)この本に書かれている。
- 上井喜彦・野村正實編著[2001]『日本企業 理論と現実』ミネルヴァ書房。
  - 本講義の見解は、この本に影響を受けている。